

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
 (発達障害早期支援研究事業)
 成果報告書 (概要版)

実施機関名 (佐賀県教育委員会)

1. テーマ

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援の充実
 ～小・中連携を軸として～

2. 問題意識・提案背景

小城市では「子どもサポーター」と呼称する特別支援教育支援員の適正な配置、相談ファイルの活用や「小城市子ども支援センター」を軸とした関係機関との連携強化など、特別支援教育の体制整備を推進してきた。平成 27 年度は、市内小学校 7 校、中学校 3 校に 22 名の「子どもサポーター」を配置し、その支援対象児童は 49 名に上っているが、その 3 分の 2 が特別支援学級の児童生徒であり、通常の学級に在籍する発達障害やその可能性のある児童生徒に対しては、学級担任が一人で対応しなければならない場面が多い。そこで、通常の学級での特別支援教育をどう進めていくかが大きな課題となっている。

このような状況を受け、学習面又は行動面で何らかの困難を示す児童生徒が、その困難さを顕在化させる以前からの早期支援の在り方を研究することが急務であると考えた。さらに、校種を越えた連携により一貫した支援を行うことが、今一層不可欠になると思われる。これらのことから、小学校 1 校、中学校 1 校を指定して研究に取り組むこととした。

3. 指定校について

(平成 28 年 2 月 1 日現在)

指定校名：小城市立三日月小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	128	4	123	4	125	4	124	4	141	4	148	4
特別支援学級	3	—	3	—	5	—	2	—	6	—	4	—
通級による指導 (対象者数)	0	—	1	—	2	—	4	—	2	—	1	—
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数	1	1	39	2	3	1	2	4	1	5	59	

- 特別支援学級：知的障害 1、病弱・身体虚弱 1、自閉症・情緒障害 2
- 通級指導教室：LD/ADHD 1

指定校名：小城市立三日月中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数		学級数
通常の学級	120		4		144		4		130		4
特別支援学級	8		—		2		—		3		—
通級による指導 (対象者数)	0		—		0		—		0		—
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育 支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	1	23	1	4	1	2	3	1	2	39

○ 特別支援学級：知的障害 1、自閉症・情緒障害 2

4. 指定校における取組概要

<p>①目的・目標</p> <p>発達障害やその可能性のある児童生徒に対して、個別の教育支援計画に基づく生涯にわたる一貫した支援システムの構築と効果的な活用を図り、関係諸機関との有効な連携により早期発見・早期支援の実践的事業展開を目指す。また、発達障害やその可能性のある児童生徒に対する適切な指導及び必要な支援等についての調査研究を行い、教職員の資質向上を図る。</p> <p>【三日月小学校】</p> <p>②学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Q-U (Questionnaire-Utilities：楽しい学校生活を送るためのアンケート)、「アセスメントシート」(岡山県総合教育センター特別支援教育部開発)、アンケート等による実態把握 ・ 発達障害支援アドバイザーによる行動観察、教職員との情報交換及び助言 <p>③学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業（一斉指導）における指導方法の工夫内容 <p>「5つのわかる化」(構造化、視覚化、焦点化、明確化、選択化)を意識した手立てやICT機器(電子黒板、タブレットPC、書画カメラ等)の活用、場の構造化、刺激量の調整、ルールの明確化、クラス内の相互理解の工夫を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後補充指導等、個別の指導における指導方法の工夫内容 <p>各学級におけるつまずきのある児童の状況の理解、その児童の「できる」、「わかる」、「楽しい」と感じられる手立てを検討し支援を行った。また、有効だった支援具等を集めた「手立ての引き出し」を作成、紹介、共有した。</p> <p>④学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害やその可能性のある児童の保護者との連携の充実 ・ 医療機関・専門機関との連携、Q-U、「アセスメントシート」、アンケート等 ・ 発達障害支援アドバイザー1名配置：保護者対応(83件)、校内研修講師(子どもサポーター研修4回、新採研修3回、学年研修2回、全体研修1回)、「お便り」の発行(保護者対象2回、教職員対象11回)、関係機関との連携、巡回相談等の取組 <p>【三日月中学校】</p> <p>②学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化</p>
--

- ・ Q-Uや「アセスメントシート」の実施
 - ・ 担任等の行動観察を基に個々の生徒の特性や学級集団認知傾向をまとめる
- ③学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容
- ・ 授業（一斉指導）等における指導方法の工夫内容
授業において、全ての教科等で時間や学習内容、ワークシートの構造化に取り組み、情報伝達の工夫や参加の促進に配慮した。
学級環境づくりにおいて、全ての学級で場の構造化や刺激量の調整、ルールの明確化を実施し、支持的風土づくりのためにリレーションタイム（対話を促進する活動）やグループワークトレーニング、構成的グループエンカウンターに取り組んだ。
 - ・ 放課後補充指導等の個別の指導における指導方法の工夫内容
毎週月曜日に学習会を実施し、生徒の学習状況に応じた個別指導を実施した。
- ④学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価方法
- ・ 生徒に対して、授業と教室環境についてのアンケートを実施
 - ・ 教員に対して「授業づくり・学習環境づくりのユニバーサルデザイン自己チェック」を実施
 - ・ 発達障害支援アドバイザー1名配置：授業参観・生徒観察（毎日）と気づき・助言（毎週）、校内研究会への参加と助言（13回）、教師・生徒との相談・助言（随時）

5. 主な成果

- ・ 「5つのわかる化」、「学びをひらく授業づくりのユニバーサルデザイン」を意識した取組を継続したことにより、学習に集中できる時間が長くなった児童生徒が増え、学習意欲や教科の目標達成率を向上させることができた。また、個別支援の充実が進み、学習に対する自信や自己肯定感の向上が見られた。
- ・ 発達障害の可能性のある児童生徒の実態把握を踏まえ、ユニバーサルデザインの視点から教室環境を統一したことや学習用具等の整理のためのルールづくり、写真や廊下歩行の補助線等の環境整備を行ったことで、学習に集中できたり、学校内での基本的な生活の仕方をよく理解できたりする児童生徒が増えた。
- ・ Q-Uや「アセスメントシート」、担任の行動観察等を基に個々の児童生徒の特性や学級集団認知傾向が理解できたことで、授業での方策をはじめ効果的な支援方法が明確になった。
- ・ 教員が自己の取組状況を振り返るためのチェック票を開発し、ユニバーサルデザインへの理解や実践への意識を高めた。
- ・ 全学級を全教職員でサポートしていくための時間割を整備し、複数の教職員で学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒を支援していく体制が整った。また、医療機関・専門機関との連携を密にし、教職員が専門的な知識を得ながら一貫した支援を行ったことで、児童生徒のパニックを起こす頻度が減った。
- ・ 小・中学校合同の校内研修会や研究推進委員会を行ったことにより、特別支援教育の進め方やユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業・環境づくりの面で連携を進め、各児童生徒の一貫した支援等、共通理解を図って支援することができた。

6. 今後の課題と対応

- 学級の認知傾向や教科指導上配慮を要する児童生徒を意識した授業づくり、学習環境づくりを全教職員、全教科で確実にを行うために、継続的实践と確実な引継ぎが必要である。
- 発達障害やその可能性のある児童生徒の特性やつまずきに配慮しながら、自ら考え他者と豊かに関わりながら学び合っていく授業モデルの改善工夫を進めていく。
- 学級のルールづくりや学級の支持的風土づくりを、児童生徒の実態に応じて工夫改善していくことが必要である。
- 担任以外の教職員が児童生徒と信頼関係をつくり、個別支援の効果を上げていくためには、どのような指導・支援が必要かを明らかにしていく。
- 各学級での指導・支援とともに、児童生徒によっては支援の場についても検討していく必要がある。
- 全教職員・全教科等による確実な実践を推進する。
- 研究成果を広く普及させる取組を行う。

7. 問い合わせ先

組織名：

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| (1) 担当部署 | 佐賀県教育庁教育政策課特別支援教育室 |
| (2) 所在地 | 佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号 |
| (3) 電話番号 | 0952-25-7475 |
| (4) FAX 番号 | 0952-25-7409 |
| (5) メールアドレス | kyouikuseisaku@pref.saga.lg.jp |